

菜種の香古き堺をひたすらむ

踏ままほしけれこのばば殿馬場の道

歌 意

ふるさとの堺の町には、菜の花が一面に咲き、今もその香りが満ちていることでしょう。かつて歩いた殿馬場の道をもう一度踏みしめたいものです。

掲出歌集 収録なし 昭和6（1931）年（晶子52歳）

